

始良・伊佐 NO. 14 ('07. 7) 2007年07月15日

「九条の会」ニュース

発行／「九条の会」アピールに賛同する始良・伊佐の会

事務局／立山征男 〒899-5115 霧島市隼人町東郷561-5 TEL 090-5737-8733

毎回、会報・ニュースを発行していきます。

メール原稿は、kmori@po.synapse.ne.jp へ直接、届けてください。(編集担当)

1 7月7日の定例学習会の記録

「盧溝橋事件から70年-地域から戦争を考える」

激しい雨の止んだ6時半から国分のシビックセンター(公民館)研修室で7月の定例会を開いた。参加者は10名と先月より少なかったが、1937年の盧溝橋事件からちょうど70年の日、まず日中戦争を前後とする歴史背景を映像記録でした後、第1部では、日本平和委員会が2006年に作成したDVD作品「あたらしい憲法のはなし」(本編32分、日本電波ニュース社)を見た。

第一部 DVD「あたらしい憲法のはなし」

そこでは日本軍による中国・重慶への無差別爆撃と広島・長崎の被爆映像が重ねられ、沖縄戦を体験した中村文子氏の「軍隊は住民を守らない」との証言、ついでイラク西部のファルージャでの米軍による住民無差別攻撃の光景が写された。軍事評論家の前田哲男氏は、憲法九条を変える狙いには「集団的自衛権」の行使を可能にし、日本をイギリス並みの米軍の同盟軍として、中東から東北アジアを結ぶ西半球に日本の自衛隊を展開させようとする、米国の意図があると指摘していた。

また2002年から04年に軍縮会議日本代表部特命全権大使となった猪口邦子氏が衆議院の憲法調査会で「(憲法9条が)が国際社会に特別な地位を得るに至っている」と報告するシーンもあった。

政府与党内にあっても憲法9条が「事実認識」としては否定できない意義を持つゆえ、今後、どのような改憲に向けての巧妙に「世論誘導」を図るのか、さらに注視しなければならないと考えた。

第二部 国分・隼人・加治木地区の「戦争遺跡見聞」

知覧町に在住の八巻聡氏の作成したHP「戦争遺跡見聞」(※1)から国分や溝辺、鹿児島市鴨池の周辺のもの、ついで続博治氏の撮影した加治木町の戦争遺跡をいずれも画像にて見た。敗戦の年、南九州が沖縄への特攻作戦の出撃基地であったことや敗戦時の戦争体験を今日に語り継ぐものである。加治木町のそれは「8・11空襲」の戦災と京都・舞鶴と並ぶ2万数千名もの引き揚げ地であったことを記録している。

鹿児島県下には、1945年の秋、沖縄戦に次いで米軍の上陸作戦(オリンピック作戦)を想定され、八巻氏は著作で、加治木への「8・11空襲」はその作戦の一部であったと説明している。南薩や大隅の地には、防衛陣地に関する戦争遺跡が今も地域に点在しているが、これらの遺跡は今、意識的に保存しなければならないと結んでいる。(※2)

国分や溝辺のそれは、日頃、行き来している場所であり、会場からは驚きの声があがった。なかでも国分の自衛隊駐屯地周辺の戦争遺跡や隼人サティの造成中、敷地内に見つかったB-29によるクレーター状の爆撃跡など、60年前のそれが今日に強いメッセージをもってよみがえってくるように思えた。

(※1) URL : <http://www1.newweb.ne.jp/wa/yamaki/>

(※2) 八巻聡『鹿児島県の戦争遺跡 本土決戦編①』(自家版、1000円)

上映ののち、参加者どうしで討論となった。溝辺の基地建設に地元住民が子どもまで動員されたことや強制連行された朝鮮人労働者に多くの犠牲者があり、慰霊碑があることなど紹介された。次回は、「加治木町 8・11 空襲」から62年であり、会合の前に町内の戦災の跡を見、そののち福祉センターで学習会を開くことになった。

「イラクからの手紙
—失われた僕の町ラマディー—

著 カーシム・トゥルキ

共訳：高遠菜穂子 細井明美

A5版 84ページ 500円
(送料込680円)



*振替口座

郵便振替 00120-2-483772

加入者名 細井明美

2005年1月28日の記述より
電気もなければ水もない。家族のために買い物にも行けなくなってしまった。すべての道路は封鎖され危険になった。僕たちは馴染みのある自分たちの町に住んでいるのだろうか？それとも、米軍の監獄の中に入れられているのだろうか？戦車が、通りにある駐車中の車を次から次へと潰していく...

始良・伊佐 九条の会
8月定例会のご案内

地域の戦争遺跡～フィールドワーク

1945年 引揚船入港の地

&加治木町戦跡をたずねる

とき 8月11日(土)17:00～

フィールドワーク

ところ 加治木町福祉センター集合

【学習会】

18:30～ 加治木町福祉センターにて学習会

テーマ

「8・11 加治木町空襲から62年
—今、地域から戦争を考える」(仮)

講師：有馬純一さん(「戦争と平和に関して地域の歴史から学ぶ」)

加治木始良地区での被災体験の掘り起こしと、戦後の加治木港への引揚げ問題など



<お知らせ>
取り扱っている書籍とDVD作品

【書籍】

木村 朗編『米軍再編と前線基地・日本』

(凱風社、2007年) 1700円

市民意見広告運動編『武力で平和は作れない』

(合同出版、2007年) 1000円

安田浩一『外国人研修生 殺人事件』

(七つ森書館、2007年) 1600円



【DVD作品】

『基地はいらない どこにも』

(日本電波ニュース社、2006年) 3150円

『軍需工場は、今』

(日本電波ニュース社 41分) 3150円

